市民のひろば

掲示板

◆モラロジー生涯学習セミナー

【日時】7月5日(火)〜7月6日(水)
【場所】高知工科大学
【料金】1，800円（テキスト代270円を含む）
【主催】公益財団法人モラロジー研究所
【問い合わせ先】香美モラロジー事務所 間城☎52・5505

まちの声

◆市民の皆さん議会に関心を！

3月中ごろ、ウォーキング中に、香美市第1回議会定例会開催の立て看板案内が目に入り、生まれて初めて議会を傍聴しました。

私の議会イメージは、テレビの国会中継などから衆参国会議院とまでは及ばずながらも、多少なりとも厳かで重厚なジュウタンが敷かれた、近寄りがたい議場ではないかと想像していましたが、議会場に入り驚きの始まり。学校の教室に少し手を加えたかのような質素な議場。さらに、議長席・質問席・答弁席の演壇や各議員席の机等も、イメージとは程遠い質素なもので、戸惑いと驚きの連続でした。（近く、新庁舎が完成することから解消されるとは思いますが）

議場のイメージはさておき、議会傍聴で感じたことですが、当日の議員の質問内容や、それに対する答弁から、議場のイメージに比例し物足りなさを痛感しました。

新年度予算を審議すべき重要な議会開催にも関わらず、内容は新鮮味や具体的なものに欠け、物足りなさを感じました。質問者は、当然事前に勉強されているとは思いますが、新聞報道や業界紙の統計資料等をネタにしたもので、質問者の主張や意図がどこにあるのか、市民の声を反映しているのか等、疑問の残る質問内容でした。

また、執行部答弁も一般論に終始し、市独自としての取り組みに欠けたもので「国、県の考えに沿って…」といった内容がほとんどであった。（当然、大半の予算が上部からの交付金であり、市独自の予算は組めないことではあるが）

議会は、市の代表機関であることを自覚し、活発な論戦を通じて『責任ある香美市』を築きあげていく責任があるのではと傍聴を通じ感じました。

市民の皆さん、選挙期間中のみの関心事に終わらせず、せめて議会開催中、一度は傍聴に出かけてはいかがでしょうか。（M）

神氏ちゃん〜ダブルNEWフェイス!!!〜の巻 その45

作：鳴鉢 ウノタ
（山田高校マンガ部）

おたんじょうび おめでとう

今月満1〜3歳の誕生日を迎えるお子さんを紹介します。

わたしたち 姉妹で〜す

掲載を希望される方はお問い合わせください。締切日は誕生月の前月1日まで。
問 総務課☎53−3112

編集後記

▼新庁舎での勤務が始まりました。セキュリティが強化され、慣れない操作に帰るのにも一苦労ですが、新しい庁舎はやはり気持ちのよいものです。（細木）

6月16日から市議会のインターネット配信が始まります。

香美史探訪記 第25回 純信とお馬 恋の峠道

純信の弟が、吉祥寺境内の墓地に埋葬されていることとは、『第24回貴船神社と吉祥寺廃寺』でふれたが、純信は、安政元年秋、亡母の法要のため土佐市市野々に帰郷していた。その間、竹林寺の若い僧慶全が、はりまや橋の小間物屋でカンザシを買いお馬に贈った。同年11月4日、安政の大地震で土佐国は大きな被害があり、暗い世相に「坊さんがはりまや橋でカンザシを買い若い女性に贈った」とユーモラスな話題が歌になって世間に広まり、お馬は幼少の頃から慕っていた南坊の36〜7歳になる純信に相談したと思われる。

騒ぎは収まらず、安政2年（1855年）5月夜、二人で五台山を出奔し、舟入川に沿って山田に入り、土佐山田町楠目の吉祥寺に来て住職に相談した。楠目村安衛門を道案内に、物部川北岸を楮佐古村から笹番所を通って、讃岐の琴平まで逃げていった。このときに通った八京峠に、猪野々・楮佐古・神池部落が石碑（物部町楮佐古）を建てている。

その後2人は捕まり、純信は明治21年に愛媛県で、お馬は明治36年に東京で亡くなった。

（香美史談会）

至 笹番所
亀ヶ峠（当時の往還）
物部町楮佐古
香北町猪野々
物部町神池
石碑
物部町大栃
大栃小

石碑『純信お馬恋の峠道』

お馬さんのその後

純信と別れたお馬は、米之助という男と結婚し、二男二女をもうけている。

明治の中期、ある男が東京滝ノ川の県人会に出席した際に、宴会でよさこい節を歌った。歌い始めると隣の男が腰を強くついて制止する。わけを聞くと「真向かいのバンバがお馬ぞ」と言った。

（参考：竜月 南土交友誌月間第28号より）

ただいま留学中㊾

李栄娟（リー ロンジュアン）（中国・ハルビン出身）

皆さんこんにちは、私は高知工科大学博士課程の2年生です。知能機械工学を勉強しています。

私の故郷はハルビンです。ハルビンは中国の東北地方にある黒竜江省の省都で、人口267万人の大きな都市です。市の中心部には、松花江という美しい川が流れていて、有名な歴史史跡や建造物が多数あり、観光都市として有名です。ハルビンの気候は、夏は30℃、冬は約-30℃に達して年間を通して寒暖の差が大きく、特に、冬季の温度が低いことから『氷の都市』とも呼ばれます。冬はすべての景色が白色になり、また、世界中でよく知られている『氷雪祭り』では氷や雪で造られた彫像のライトアップが見られるため、冬が最も美しい季節ともいえます。

12世紀始めには金朝が、また17世紀には清王朝が建国されるなど、ハルビンは古くから重要な都市です。ハルビンには多くの少数民族が古くから居住していることから、多くの文化が入り交ざっていて、文廟や極楽寺、東方正教やカトリック教の教会など欧風建造物が多く現存しています。そのため、ハルビンは『東方の小パリ』とも呼ばれます。

ハルビンには太陽島という有名な公園があります。夏、ハルビンの地ビールを飲みながら公園の美しい景色を眺めるのは最高の気分です。また、冬も素晴らしい雪景色や氷雪祭りの彫像を観たり、雪上や氷上でのゲームを楽しんだりする人でにぎわっています。

氷雪祭りにて